

戦略2関連 人・モノ・情報の自由自在な交流を実現

地域の特性に応じて多様な交通モードと最先端技術を組み合わせ、世界一使いやすい総合的な道路・交通ネットワークを構築し、人・モノ・情報の自由自在な移動と活発な交流を実現します



(まちの顔としてにぎわう地下鉄駅周辺)

開発に併せ、駅とまちのつながりが大きく改善された地下鉄駅周辺では、子育て、防災、にぎわいなど多様な機能が導入され、活気にあふれています。

多くの旅行者やビジネスパーソンなどが集まり、自動運転技術を活用したスマートモビリティ※や、シェアサイクルなど多様な交通モードを利用し、自由自在で快適な移動を楽しんでいます。



(道路空間が再編されゆとりやにぎわいが生み出された区部周辺部や地多摩地域)

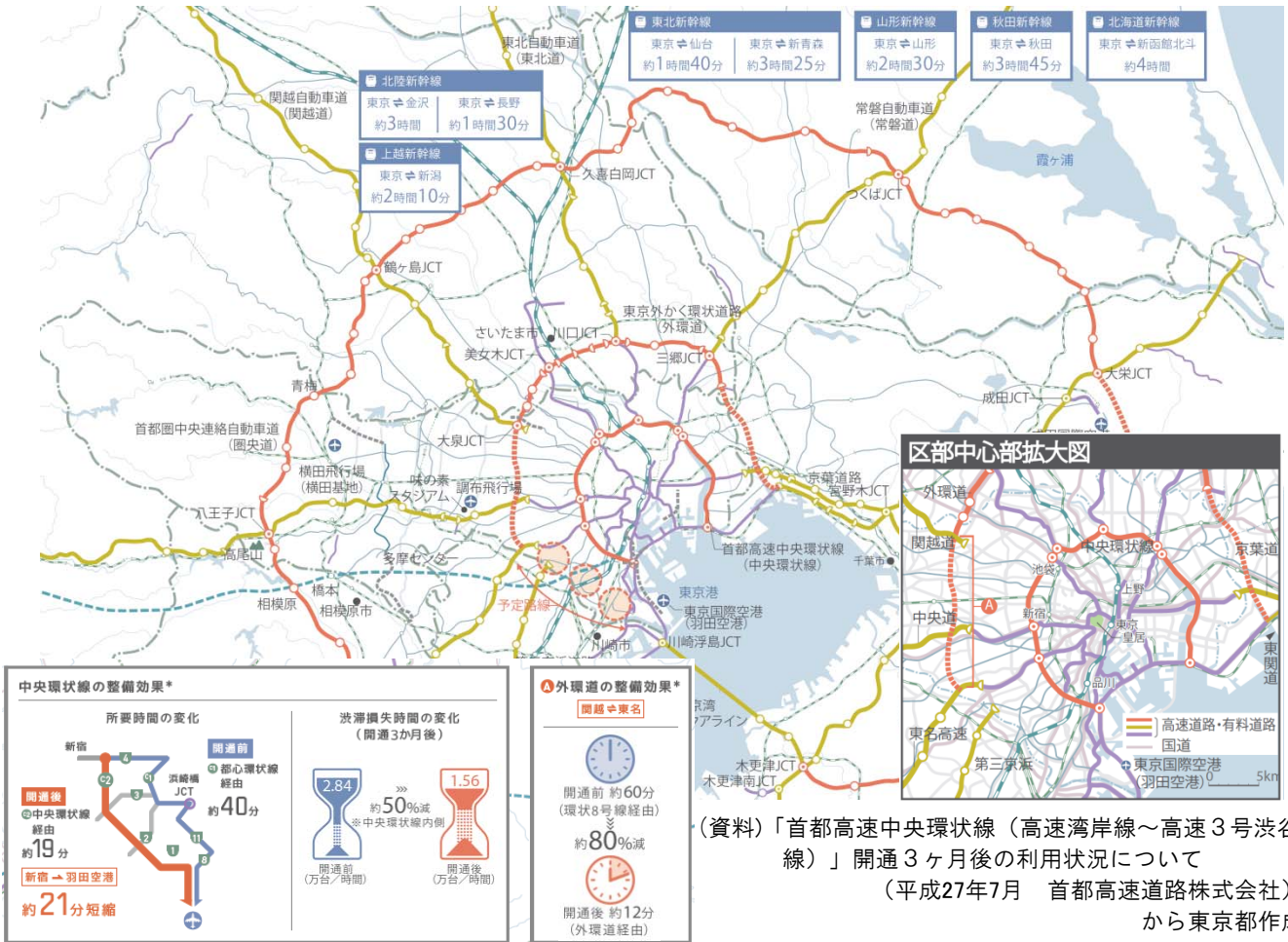
道路ネットワークの概成により自動車交通が円滑化した幹線道路では、緑の歩行者空間や新たな交通モードの導入など、多様な道路の使い方が実現しています。

高齢者や子育て世代が、安全で快適な移動により、時間にゆとりのある暮らしを送り、緑豊かな風景の中で行われる水辺のにぎわいやイベントを楽しんでいます。

(現状と将来の見込み等)

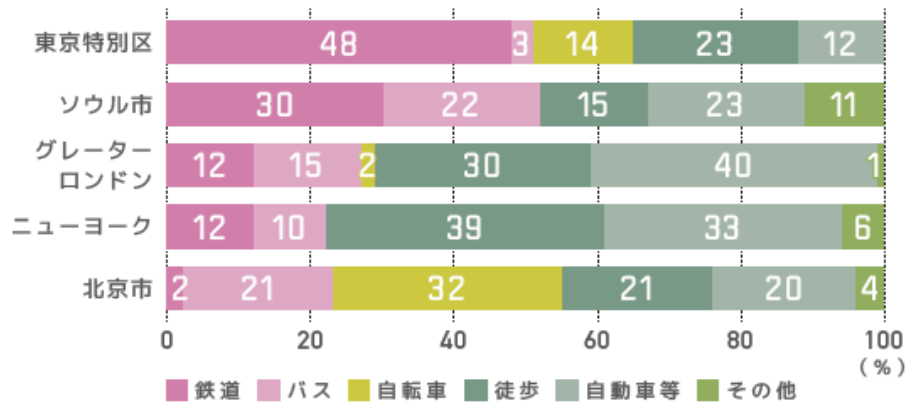
- ・渋滞解消や災害時のリダンダンシー※確保などに資する道路ネットワーク構築のため、高速道路や骨格幹線道路、補助幹線道路の整備などの取組を進めています。(図2-1)
- ・東京2020大会開催に伴う利用者の増加やその後の航空需要も見据え、首都圏の空港機能強化の取組を進めています。
- ・東京では、世界トップレベルの高密度な鉄道ネットワークの充実や、鉄道駅周辺のバリアフリーに関する取組を関係機関の連携により着実に進めています。(図2-2, 3)
- ・今後少子高齢・人口減少社会が到来するなか、経済活力の向上と個々の価値観に合わせたライフスタイルの実現に向け、自由自在な移動と交流を確保する交通環境が必要となります。

図2-1 広域的なインフラネットワーク



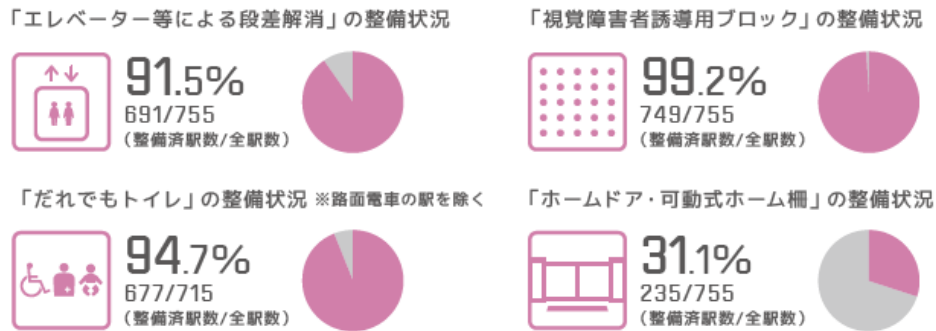
(資料)「首都高速中央環状線（高速湾岸線～高速3号渋谷線）」開通3ヶ月後の利用状況について
(平成27年7月 首都高速道路株式会社) から東京都作成

図2-2 交通手段分担率



(資料) 「平成24年度 首都圏整備に関する年次報告(首都圏白書)」(平成25年6月 国土交通省) から東京都作成

図2-3 都内鉄道駅(JR・私鉄・メトロ地下鉄)のバリアフリー進捗状況

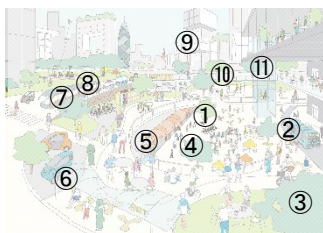


(資料) 「平成27年度末 都におけるバリアフリー化等の進捗状況」から作成

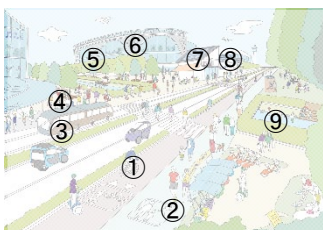
パースの解説

キープラン

解説



- ①ストリートファニーニチャーが置かれ魅力あるサンクンガーデン※
- ②自転車と一緒に乗れるBRT ③公民の緑が一体となった空間 ④駅近くに整備された自転車シェアリング※のサイクルポート ⑤改札のない地下鉄駅 ⑥シェアできる小型モビリティ ⑦フィーダー交通として導入された燃料電池バス ⑧車いすスポーツが行える競技場 ⑨子育て支援、防災など多様なサービス機能を持つ大型施設 ⑩家族でくつろげる緑あふれる空間 ⑪地上とビル、ホームを直結する大型エレベーター



- ①自転車や小型モビリティを使い誰もが移動しやすい交通環境 ②無電柱化が進み安全で歩きやすい幹線道路 ③自動運転技術を取り入れた燃料電池バス ④観光客を楽しませる路上パフォーマンス ⑤有機的につながった水辺と街路樹の緑 ⑥誰もが気軽に楽しめる総合スポーツ施設 ⑦太陽光発電を導入した建物 ⑧空き家をリノベーションしたカフェ ⑨地域の原風景を再現した水辺空間の創出